

様式 F-7-1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成24年度）

1. 機関番号	4 2 6 7 6	2. 研究機関名	大妻女子大学短期大学部																									
3. 研究種目名	挑戦的萌芽研究																											
4. 補助事業期間	平成23年度～平成25年度																											
5. 課題番号	2 3 6 5 2 0 5 5																											
6. 研究課題	欧米との比較を介した日本近代文学及び映画における死の表象の再構築																											
7. 研究代表者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>研究者番号</th> <th>研究代表者名</th> <th>所属部局名</th> <th>職名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0 0 3 4 1 9 2 5</td> <td>キドノ トモユキ 城殿 智行</td> <td>国文科</td> <td>准教授</td> </tr> </tbody> </table>				研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名	0 0 3 4 1 9 2 5	キドノ トモユキ 城殿 智行	国文科	准教授																
研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名																									
0 0 3 4 1 9 2 5	キドノ トモユキ 城殿 智行	国文科	准教授																									
8. 研究分担者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>研究者番号</th> <th>研究分担者名</th> <th>所属研究機関名・部局名</th> <th>職名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>				研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名																				
研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名																									
9. 研究実績の概要	<p>「研究の目的」に明記した通り、日本近代文学及び映画における死の表象の歴史的な把握を試みる本研究において肝要なのは、厳密に言えば思考することも表象することも不可能な死が、言語及び映像によっていかに語り損ねられてきたのかをとらえようとする点にある。つまり単に死の表象一覧を作成するのではなく、むしろ死をめぐる表象の不可能性が、歴史的な観点から見て、どのように変移したのかを跡づけようと試みる点に、主眼がある。</p> <p>そうした観点から日本映画をとらえ直した場合に、避けて通れない存在が、溝口健二である。1950年代以降、フランスにおけるカイエ・デュ・シネマ派の溝口評価を典型として、ロング・ティクやロング・ショット、そしてディープ・フォーカスが溝口の個性であると考えられてきたが、ノエル・バーチやディヴィッド・ボードウェル以後の研究は、むしろ画面内における被写体の遮蔽と、オフ・スクリーンの活用にこそ、溝口の特質を認めようとしている。つまり、対象を直接に表象しようとはせず、むしろ肝心なイメージから視聴者の目を逸らそうとする、意図的なフレーム・ワークと、組織的な編集にこそ、溝口の特質があるのだといわれる。</p> <p>換言すれば、『山椒大夫』における安寿の入水シークエンスを見れば明らかのように、決して直視しえない不在の焦点たる死を避け、しかしながらかつそれをめぐって撮られるのが、溝口の作品なのである。今年度は、そうした溝口の特質を再考し、新たな観点をつけ加える新論を発表し、溝口の映像作品と文学の関わりをめぐって、別論文で考察を加えた。</p> <p>また、「研究実施計画」に記載した通り、P・アリエスを軸として、西欧古典における死のイメージの変遷をふまえ、理論的な基礎を形作るために、ルネッサンス期前後のイメージを精査する際には欠かすことのできない、ワシントンのナショナル・ギャラリー他において、資料調査を行った。</p>																											